

部局名

農学部

担当: (佐伯 雄一)



テーマ

ダイズ遺伝資源の活用・ダイズ栽培技術 (MaMeCon Project)



テーマの目標

このテーマでは、地球温暖化を先取りして、国際共同研究において数十年先の南九州の気候に適したダイズの品種を選び出し、その栽培技術を開発することで、宮崎の将来にわたる農業生産を安定的そして持続的なものにして、地域の農業に貢献することを目指しています。 テーマリーダー: 佐伯 雄一 教授

このテーマを宮崎大学で取り組む理由

宮崎は、早期水稻の産地であり、収穫後に秋からダイズ栽培がてきる地域で、宮崎大学は、約1400系統のダイズ遺伝子資源を保有している研究機関であり、この資源から、宮崎の将来の気候に対応した有望なダイズ品種を選び出すことができます。

これからの農業生産において重要な作物ダイズ！



ダイズの栽培技術の向上は、宮崎そして日本の農業に大きく貢献します。

【ダイズの栽培による、水田のフル活用】

宮崎は、早期水稻で有名ですが、収穫した後の水田で、ダイズを栽培することで、水田が1年をとおして利用され、農家の収益が改善されることが期待されます。

【ダイズ自給率の向上への貢献】

ダイズは、食用だけでなく、バイオ燃料や家畜飼料としても必要とされ、国際取引価格は上昇しています。そのため、日本の食糧を確保するという点から、国は令和12年までに国内のダイズ自給率を6%から10%へ引き上げることを目標としています。

期待できる成果・評価 など

狭い国土に1億人を超える人口を持つ日本において、食料やエネルギーといった私たちの生活の基盤となる資源が世界的には将来的にわたって十分とは言えない状況にあり、この解決の糸口の一つとして地域の資源、特に食料資源を見直して、効率良く生産や利用をする新しい技術や仕組みを開発していきます。

参考URL

■ 宮崎大学 ミッション実現戦略プロジェクト
MaMeCon Project

<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/mamecon/>